

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700261
法人名	医療法人 浦岡医院
事業所名	グループホーム やすらぎの家
所在地	大洲市西大洲甲525番地
自己評価作成日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 3 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯に建てられており、平屋建てで木材を多く使い温かみがあり、玄関のドアも開け放ち開放的にしている。医療法人浦岡医院が運営しており、週3回医師、看護師が来られ、利用者の健康状態を把握している。健康面で不安を抱える方も安心して過ごして頂ける環境にある。職員は利用者の思いやペースを尊重しながら、日々の暮らしや楽しみ事をゆったり支援するよう心がけている。地域の納涼大会や敬老会などに参加し、地元の幼稚園児や、小学生と行き来する機会があり、また中学生の福祉体験実習や県社協が主催するボランティアも受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年目を迎える事業所の平屋建てで木材を多く使った温かみのある建物は、のどかな田園地帯に囲まれ四季折々の風情を感じることができる。母体は医療法人で、24時間対応の医療連携を確実にできる体制が整っており、健康面で不安を抱える利用者も安心して過ごすことができる。また、利用者が楽しく穏やかに過ごすことができるよう、思いや意向を尊重しながら一人ひとりに寄り添った支援に取り組んでいる。また、管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、利用者の重度化に対応できるケアに取り組んでいる。年間行事を通して地域住民や子ども達との交流は深く、事業所自体が地域の一員として溶け込んでいる。利用者は家庭的な雰囲気の中で、職員の明るい笑顔に支えられながら穏やかな日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム やすらぎの家

(ユニット名) A 棟

記入者(管理者)
氏名 井上 博子

評価完了日 平成 27 年 12 月 7 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念に基づいてミーティングや申し送り時に話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
			(外部評価) 「自分でできることはしましょう」「笑顔で楽しく暮らしましょう」という理念は、利用者の意見も取り入れて作成しており、玄関と各ユニットに掲げられている。管理者と職員は一人ひとりが高い意識を持って理念の実践に努めている。また、利用者も理念を共有して、できることを続けている。事業所全体で理念の実践ができるよう体制づくりに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の盆踊り、ふるさとまつり、敬老会、奉仕活動に参加している。また、地域の幼稚園、小学校との交流会、中学生の社会福祉体験実習、県社協のボランティア等の受入れもしている。	
			(外部評価) 盆踊りやふるさと祭り、溝掃除などの地区行事に参加したり、小学校の運動会への参加や中学生の福祉体験の受入れ、事業所の畑で幼稚園児と一緒に芋ほりを行うなど、地域との交流を深めている。また、一般ボランティアを受入れ、一緒に洗濯物をたたんだり、年1回小学生との交流会を行っている。地区の公民館に「やすらぎ便り」を置いてもらうなど、協力関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 年2回広報を作り、地区長さんに回覧で回して頂き、やすらぎの家でどんなことをしているか知って頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者さんや職員も参加して、運営推進会議で利用者さんの状況や、今取り組んでいることを報告したり、話し合っって意見や助言を頂いている。委員の方や、ご家族に議事録を郵送している。また、掲示している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は市役所職員、区長、公民館長、小学校校長、他グループホーム管理者、利用者や家族など幅広い人々が参加して開催されている。事業所の職員も日勤者が交代で参加し、地域の方の貴重な意見や外出先の情報を直接聞くことができる。会議で情報をもらって、「八幡浜みなと」へ芋炊き持参で行ったところ、利用者大変喜んでもらった。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 大洲市の主催する会議、研修に参加し意見交換を行っている。また、地域包括支援センターとの交流を図り、ケアの質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に参加し情報交換したり、事業所の相談やケアプランチェックでは担当者から適切な指導助言を受けている。今回、感染症対策として加湿の方法を教えてもらった。また、4カ月に1回、介護相談員2名の訪問があり、相談しやすい関係が築けている。介護相談員から、正面玄関のスロープに置いているプランターは車イス移動の際に障害物となるという助言をもらい、別の場所に移動することができた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ベッド柵は最小限必要などところのみ使用している。また、必要時のご家族の了解を得て行うようにしている。玄関は自由に出入り出来るように開放している。</p> <p>(外部評価) 愛媛県地域密着型サービス協会が主催する研修があり、職員2名が参加し、ミーティングや回覧で全職員に研修報告を行なった。身体拘束のマニュアルを作成し、朝夕の申し送りやミーティングで身体拘束をしないケアについて常に話し合いをしている。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者が自由に出入りできるよう配慮され、見守りを徹底している。また、言葉についても日頃より尊厳を大切に声かけをするよう職員間で気をつけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成、職員に周知しミーティング内で話し合ったり、学ぶ機会を持ち、利用者さんが安全に生活でき、見過ごされることのないよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修に参加し、他の職員にも周知できるようにミーティング時に研修内容を発表し、必要性を理解出来るようにしている。後見人制度を利用されている方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結、解約、改定等の際は不安な点などを尋ね、理解、納得をして頂くよう努めている。入居後、不明な点などあればその都度対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行ったり、介護相談員さんに来て頂き、意見や要望を聞く機会をもち、運営に反映させている。意見、要望がある時には、ミーティング等で話し合っている。	
			(外部評価) 利用者や家族等の要望は、面会時や家族アンケートを活用して聞くよう努めている。「職員が重度の利用者に関わる時間が多く、他の利用者に関わる時間が少ない」という要望が出され、ミーティングで話し合った結果、関わりの少ない利用者に対しては居室でゆっくり話を聞く時間を設けるようにしたところ、日々の生活の中で笑顔が増えてきている。また、出された意見は職員間で話し合い対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) ミーティング等に理事長に出席して頂き、職員の見 意見を聞く機会を設けたり、管理者はその都度提案な どを聞き反映させている。案を実施し改善点などあれ ば、再度ミーティングで話し合っている。	
			(外部評価) 管理者は毎月のミーティングで職員の要望や意見を聞 くよう努めている。また、働きやすいシフトを組むな どコミュニケーションを図りながら、働きやすい職場 環境づくりや信頼関係づくりを大切にしている。今年 度より個人ファイルを作成して1年間の個人目標を立 て、年度末に振り返りをする予定である。給与面でも 行事参加時は手当支給があり、職員の意欲にも繋がっ ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 職員個々の実績や勤務状況を把握し、向上心を持って 働けるよう環境、条件の整備、健康管理に努めてい る。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 就業時には理事長のオリエンテーション、また一人ひ とりのケアの力量を把握し、内外の研修を受ける機 会を確保し、職員を育てるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをしてい る	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会や、大洲市が開催する 連絡会に参加する機会をつくり、相互訪問などの活 動を通じサービスの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者本人の話を傾聴し、安心を確保できるよう信頼 関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでのご家族の苦労や、今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について困っている事などをゆっくり聞くようにしている。話を聞く事で信頼関係を得るように心がけ、求めていることに応えるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人や家族の思い、状況を確認し、アセスメントを行い、その時に必要な情報を集め、課題を明らかにして、より安心して過ごせるようケアサービスに努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の思いや苦しみ、不安、喜びなどを知ることにより、暮らしの中で分かち合い共に生活する関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が来訪されたときに、日々の暮らしの出来事や気付いた事、現在の状態などをお話しし、本人を支えていく関係を築いている。また、必要に応じて電話連絡をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある人が面会に来られやすい雰囲気を作っている。また、ご家族や友人、知人の方が行事に参加できるよう声かけや案内状を出し、関係が築けるよう支援している。 (外部評価) 利用者の友人や知人の面会があり、職員は快く受け入れをしている。馴染みの美容室へ出かけたり、自宅付近まで付き添ったり、家族の協力のもと外出や外泊、墓参り等を行っている。また、近所の方との会話を楽しんだり、お盆には僧侶による読経があるなど、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中、体調が悪い方以外は食堂に集まり、色々なレクレーションをしたり、テレビを見たり談笑したり、家事の手伝いをして、利用者さん同士で関わりをもてるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても必要に応じて連絡を取り合い相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの気持ちを大切に声かけし、話を聞いて優しい気持ちで接する。本人のペースでのんびりと安心して生活ができるよう援助している。 (外部評価) 利用者担当を決め、一人ひとりと向き合いながら、気軽に話せるような関係作りに取り組んでいる。利用者の思いは可能な限り実現できるよう努めており、「喫茶店に行きたい」という希望を聞いて、職員が付き添って喫茶店に行き大変喜んでもらった。また、思いを言い表すことが困難な利用者に対しては、ふとした時に出た言葉やしぐさから利用者の思いを感じ取っている。把握した情報は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのカルテを見て昔の生活を聞き馴染みの暮らしができるよう努めている。また、昔の生活を回想してもらえるよう、さりげなく会話に取り入れ、安心して生活が送れるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) いつもと利用者さんの行動や表情が違ってないか、気を付けて観察し見守るようにしている。一日の生活リズムを把握し、言動や表情の変化を見逃さないよう気を付けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人がよりよく暮らすために、本人の要望や家族の要望を来訪時や電話で聞き、スタッフの要望も踏まえて、毎月1回のカンファレンスでそれぞれの意見・アイデア、アセスメントを反映し、介護計画書を作成している。また、6ヶ月毎や、体調の変化により、その都度モニタリングを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を反映して、介護計画を作成している。作成した介護計画は本人や家族に説明して承諾を得ている。担当職員を中心に定期的なモニタリングを行い、職員全員の意見や気づきを大事にして介護計画がより良いものになるよう努めている。状態の変化等必要に応じて介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 健康チェック表に、バイタル、食事、水分排泄等の状況を記入し把握したり、何をされていたか行動、言動、表情等を記録している。また、病院に受診した場合は色分けして記録し、介護計画の見直しを行っている。状態に応じて、個々で健康チェック表を行ったりしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院介助や利用者の要望に応じて、買物に行くなどの外出支援や、サービスの多機能化に柔軟に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の公民館や幼稚園の行事、同じ地域の施設の方や小学生との交流会に参加し、本人が心身の力を発揮しながら、楽しみを持ち安全で豊かな暮らしができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療連携体制をとっているため、緊急時などすぐに連 絡が取れるようにしている。週3回医師、看護師に来て 頂き、健康管理をしている。また、毎年の健康診断と 毎月定期の検査などを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診するこ とができる。受診には職員が同行して利用者の情報を医 師に伝え、かかりつけ医と連携が密に取れるよう支援 している。また、協力医が1週間に1回往診し、1年 に1回は健康診断を行っている。24時間対応で医療 連携が確実にできる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調管理をしている中で異変に気付いた時には、医師 や看護師に相談し、適切な受診が受けられるように連 携をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した時には、安心して治療が出来るよう 病院関係者に情報提供を行ったりし、情報交換や相談 をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に本人、ご家族に看取りの指針を説明し、同意 書に記入して頂いている。また、重度化した場合は主 治医や本人、ご家族と話し合いをし、こまめに連絡を取 り合いながらチームで取り組んでいる。	
			(外部評価) 「看取り介護に関する指針」を作成し、入居時に利用 者や家族に説明している。今年に入り看取り支援を 行ったが、家族、医師、職員が話し合いを重ね、本人 と家族の思いを受け止めながら穏やかな最期を迎える ことができた。また、職員の不安解消に努めていくこ とも大切だと考え、外部研修に参加したり、内部でも 勉強会を行い安心して最期を迎えられるように前向き に考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えマニュアルを作成し、毎年2回消防署職員に来て頂き、避難訓練を行っている。また、毎年1回地域の自主防災訓練に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を行い、消火、避難、通報を身につけ2ヶ月に1回の運営推進会議にて地域の方との交流を持ち、地域の防災訓練も参加したりしている。 (外部評価) 年2回、消防署立会いのもと避難訓練を行っている。日中と夜間の火災想定で避難訓練を実施し、助言をもらっている。また、伊方原発災害時には、松山市内のグループホームと協力体制を整え、避難できるようになっている。備蓄品については現在検討中である。	避難訓練において以前は近隣住民の参加もあったが、現在は平日実施ということもあり近隣住民の参加がなくなっている。利用者の重度化に伴い職員でできることには限界があり、すぐに協力を求められるのは近隣住民である。避難訓練に継続して近隣住民へ参加の呼びかけを行い、休日に実施するなど地域との協力体制を築いていくことを期待する。また、備蓄品の整備にも努めてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自分にも言われたら嫌な事は言わないように、しないようにし一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけや対応をするように心がけている。 (外部評価) 一人ひとりの気持ちを大切にして、利用者の状況に合わせた声かけのタイミングや声の大きさに配慮した対応を心がけている。家族アンケートを実施し、アンケート結果を参考に職員で意見交換を行い、出された意見を共有しながら利用者の気持ちを大切にケアが実践できるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活で利用者が望まれている事をできるだけ叶えるようにしている。本人の意思決定を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人のペースを大切にし、ゆったりとした時間を過ごして頂くよう努めている。買物やドライブはよく行っている。利用者さんが望む喫茶店へなかなか行けていないので、毎月事前にある程度行けそうな日を決め、月に1回は行くようになれば良い。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 以前されていたことが継続出来るよう、マニキュアやお化粧品などをしたり、その日着る服を選んだりして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者が食べたい物や食べやすい食材を取り入れ、見た目も重視し、出来ることを一緒にして頂いている。しかし、出来る事が減り難いことが多い。おやつ作りには参加してもらっている。また、食器にも気配りし身体に良い物を作るよう心がけている。	
			(外部評価) 献立は調理担当職員2名が作成し、2日交代で調理している。4月から管理栄養士が入職し、より一層栄養バランスを考えた食事が提供できる予定である。利用者と職員が同じテーブルを囲み、和やかな雰囲気ですべてできている。介助が必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて支援している。また、隣の畑の方から野菜の差し入れがあり、旬の食材を食することも多い。正月のおせち料理や節分、クリスマス等行事食を用意し、季節を感じながら食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量が少ない方には、食べそうな物を時間をずらして食べて頂いたり、水分量が少ない方にはお茶ゼリーを勧めたりして、一日を通じて確保出来るように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内の清潔が保てるよう、本人に合った口腔ケアをしている。また、義歯は定期的にポリドントにつけている。自力で出来る方にも声かけ、確認が必要。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) なるべく尿取りパットや紙パンツを使用しないように声かけを行い、トイレで排泄出来るよう心がけている。夜間、自分で排泄はできるが、間に合わない方にはポータブルを設置したりし、気持ちの良い排泄が出来るように支援している。	
			(外部評価) トイレは各ユニットに2ヶ所あり、跳ね上げ式の手すりを設置している。日中はできる限りトイレで排泄できるよう努めている。リハビリパンツや尿パットを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、布パンツを使用する利用者もおり、状態に合わせた用品の工夫を行いながら、一人ひとりの思いをくみ取った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を取ってもらうよう声かけや介助を行ったり、便の出にくい方には、牛乳やヨーグルトなどの乳製品や食物繊維などを取ってもらうようにしている。朝の清掃時に掃除を手伝ってもらったり、レクを行い体を動かしてもらったりしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調や気分に合わせて、入浴を実施している。訴えなどに合わせて楽しんで入浴できるよう工夫をしている。入浴を嫌がられる方には、毎日声かけを行い、気分良く入浴してもらえよう心がけている。	
			(外部評価) 入浴は週2～3回を基本として支援している。利用者の希望に沿って、毎日いつでも入浴ができるように準備されている。リフト浴が完備されているが、現在は使っていない。利用者の身体状況に応じてシャワーチェアの使用や2人体制での支援が行なわれており、利用者が気持ちよく安全に入浴ができるよう配慮されている。また、皮膚の弱い利用者は皮膚科を受診し、シャンプーなど特別に購入している。入浴の苦手な利用者には、言葉かけやタイミング、入浴日の変更をするなどの工夫をしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり体調などを考慮し、無理のないようソファや自室で休んで頂くよう、声かけや目配りを行っている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 頓服などのお薬は別に保管し、通常服用されているお薬も服薬ミスがないよう保管している。症状の変化の確認に努めている。また、処方箋を日々の記録に綴じているが、どのようなお薬を服用されているかなど内容については理解できていないことがあるため情報の共有に努める。薬袋を色分けし確認しやすいようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) いつでも、散歩や気晴らしが出来るように玄関を開放している。退屈しないよう、残された機能を少しでも伸ばせるよう、支援を心がけている。体力低下などもあり、散歩に行くことが難しくなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気分転換に散歩など行くように努めているが、人数的に余裕がない時が多いため、なかなか実行出来ていない。ご家族に協力頂ける時は、普段行けないところに出掛けたりしている。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺の散歩や玄関先で外気浴したりして、気分転換できるよう努めている。お花見や大洲城広場に弁当を持って行くなど、季節ごとに外出できるよう支援している。ミキサー食の利用者は事業所で食事を済ませて合流し、楽しい時間を過ごしている。また、散歩中に近隣の方から気軽に声をかけてもらうようになり、利用者も喜んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持は難しいが、買物の時には個別の預かり金の中から買物を楽しまれている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやりとりは難しくなっているが、面会に来られた時に、ゆっくり話が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間には畳の間、テレビなどを配置し、行事の写真、利用者の作品を飾り、心地よく過ごせる空間になっている。</p> <p>(外部評価) 温かい光が差し込むリビングは、明るく落ち着いた雰囲気になっており、対面キッチンから全体を見渡すことができる。壁には行事の写真を展示したり、クラブトや習字など利用者作品や園児から届いたメダル、中学生からの手紙が飾られている。利用者は畳コーナーにあるコタツやソファでくつろいだり、テレビを見たり、おしゃべりやカルタ取りを楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごしている。また、事業所前のプランターにはチューリップ、玄関には雛人形が飾られ、季節を感じられる工夫をしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにソファ、テレビ、カセットを置き、好きな場所で仲よし同士が過ごしたり、一人になりたい時には居室に戻ったりし過ごせるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今まで使い慣れた家具、日用品、布団などを使って頂き、安心して過ごせる場所になっている。</p> <p>(外部評価) 居室には、ベッドとエアコン、収納が備え付けとなっている。使い慣れたタンス、机、イス、テレビ、ラジオ、家族の写真や位牌等、馴染みの物が持ち込まれている。壁には利用者の手作り作品などが飾られており、落ち着いた雰囲気の中で居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの分かることや、力を活かして見守り支援し、必要以上の援助はしないように心がけている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870700261
法人名	医療法人 浦岡医院
事業所名	グループホーム やすらぎの家
所在地	大洲市西大洲甲525番地
自己評価作成日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 3 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯に建てられており、平屋建てで木材を多く使い温かみがあり、玄関のドアも開け放ち開放的にしている。医療法人浦岡医院が運営しており、週3回医師、看護師が来られ利用者の健康状態を把握している。健康面で不安を抱える方も安心して過ごして頂ける環境にある。職員は利用者の思いやペースを尊重しながら、日々の暮らしや楽しみ事をゆったり支援するよう心がけている。地域の納涼大会や敬老会などに参加し、地元の幼稚園児や小学生と行き来する機会があり、また、中学生の福祉体験実習や県社協が主催するボランティアも受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年目を迎える事業所の平屋建てで木材を多く使った温かみのある建物は、のどかな田園地帯に囲まれ四季折々の風情を感じることができる。母体は医療法人で、24時間対応の医療連携を確実にできる体制が整っており、健康面で不安を抱える利用者も安心して過ごすことができる。また、利用者が楽しく穏やかに過ごすことができるよう、思いや意向を尊重しながら一人ひとりに寄り添った支援に取り組んでいる。また、管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、利用者の重度化に対応できるケアに取り組んでいる。年間行事を通して地域住民や子ども達との交流は深く、事業所自体が地域の一員として溶け込んでいる。利用者は家庭的な雰囲気の中で、職員の明るい笑顔に支えられながら穏やかな日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム やすらぎの家

(ユニット名) B 棟

記入者(管理者)
氏名 井上 博子

評価完了日 平成 27 年 12 月 7 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 各棟、スタッフルームに利用者を書いて頂いた理念、ケア理念を掲示し、理念を共有し実践に繋げるよう努めている。	
			(外部評価) 「自分でできることはしましょう」「笑顔で楽しく暮らしましょう」という理念は、利用者の意見も取り入れて作成しており、玄関と各ユニットに掲げられている。管理者と職員は一人ひとりが高い意識を持って理念の実践に努めている。また、利用者も理念を共有して、できることを続けている。事業所全体で理念の実践ができるよう体制づくりに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の納涼大会やふるさと祭り、幼稚園、小学校と交流会を行ったり、中学校の福祉体験実習の受け入れをしたりし、日常的に交流している。また、県社協が行っているボランティアの受入れも行っている。	
			(外部評価) 盆踊りやふるさと祭り、溝掃除などの地区行事に参加したり、小学校の運動会への参加や中学生の福祉体験の受入れ、事業所の畑で幼稚園児と一緒に芋ほりを行うなど、地域との交流を深めている。また、一般ボランティアを受入れ、一緒に洗濯物をたたんだり、年1回小学生との交流会を行っている。地区の公民館に「やすらぎ便り」を置いてもらうなど、協力関係が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 定期的に作成している広報を公民館に置かせて頂いたり、地域の回覧版で回して頂いたりしている。また、電話などで相談を受けたりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の状況報告、日々の活動報告や話し合いを行い、意見、助言などを頂き、サービスの質の向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は市役所職員、区長、公民館長、小学校校長、他グループホーム管理者、利用者や家族など幅広い人々が参加して開催されている。事業所の職員も日勤者が交代で参加し、地域の方の貴重な意見や外出先の情報を直接聞くことができる。会議で情報ももらって、「八幡浜みなと」へ芋炊き持参で行ったところ、利用者に大変喜んでもらった。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 大洲市が主催する連絡会に参加し、意見交換を行ったり、ケアプランなどについて直接助言を頂いたりし、日頃から連携を密に取っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に参加し情報交換したり、事業所の相談やケアプランチェックでは担当者から適切な指導助言を受けている。今回、感染症対策として加湿の方法を教えてもらった。また、4カ月に1回、介護相談員2名の訪問があり、相談しやすい関係が築けている。介護相談員から、正面玄関のスロープに置いているプランターは車イス移動の際に障害物となるという助言をもらい、別の場所に移動することができた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束マニュアルを作成し、職員は禁止の対象となる具体的な行為を理解している。また、日中は玄関を開放したりし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 愛媛県地域密着型サービス協会が主催する研修があり、職員2名が参加し、ミーティングや回覧で全職員に研修報告を行なった。身体拘束のマニュアルを作成し、朝夕の申し送りやミーティングで身体拘束をしないケアについて常に話し合いをしている。日中は玄関の施錠をしておらず、利用者が自由に出入りできるよう配慮され、見守りを徹底している。また、言葉についても日頃より尊厳を大切に声かけをするよう職員間で気をつけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを作成、職員に周知しミーティング内で学ぶ機会を持ち、見過ごされる事がないよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護等に関しミーティング等で学ぶ機会を持ち、必要があれば活用できるよう支援している。後見人制度を利用している方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結、解約、改定等の際は不安な点を尋ね、理解納得して頂くよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行ったり、介護相談員に4ヶ月に1回来て頂き、意見や要望を聞く機会を持ち、必要であれば、ミーティングなどで話し合い改善に努めている。 (外部評価) 利用者や家族等の要望は、面会時や家族アンケートを活用して聞くよう努めている。「職員が重度の利用者に関わる時間が多く、他の利用者に関わる時間が少ない」という要望が出され、ミーティングで話し合った結果、関わりの少ない利用者に対しては居室でゆっくり話を聞く時間を設けるようにしたところ、日々の生活の中で笑顔が増えてきている。また、出された意見は職員間で話し合い対応できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングなどに理事長に出席して頂いたり、職員の意見などをひとり一人に聞く機会を設けたり、管理者はその都度、提案などを聞き反映させている。	
			(外部評価) 管理者は毎月のミーティングで職員の要望や意見を聞くよう努めている。また、働きやすいシフトを組むなどコミュニケーションを図りながら、働きやすい職場環境づくりや信頼関係づくりを大切にしている。今年度より個人ファイルを作成して1年間の個人目標を立て、年度末に振り返りをする予定である。給与面でも行事参加時は手当支給があり、職員の意欲にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の勤務実績状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境、条件の整備、健康管理に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 就業の際には、理事長のオリエンテーション、また一人ひとりのケアの力量を把握し、内外の研修を受ける機会を確保し、職員を育てるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会や大洲市が開催する連絡会に参加する機会をつくり相互訪問などの活動を通じサービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者さんの話を傾聴し、安心を確保できるよう信頼関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの経緯や、ご家族の苦労をゆっくり聞くようにしている。話を聞く事で信頼関係を得るよう心がけ、要望に応えるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントを行い、情報を集めながら本人、家族の意向に基づいた支援を見極め対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者さんの思いを、出来るだけ理解できるよう努めながら、暮らしの中で不安、苦しみ、喜びなど分かち合い、共に支え合う関係づくりが出来るよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、日々の出来事や気付いたことを一緒に会話したり、行事などに家族の参加を通じ共に本人を支えられるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が、面会しやすい雰囲気作りに気を付けている。また、家族や知人、友人の方への行事の参加をお願いしている。	
			(外部評価) 利用者の友人や知人の面会があり、職員は快く受け入れをしている。馴染みの美容室へ出かけたり、自宅付近まで付き添ったり、家族の協力のもと外出や外泊、墓参り等を行っている。また、近所の方との会話を楽しんだり、お盆には僧侶による読経があるなど、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が個性や関係性を理解して、強者や弱者が出来ないよう対応している。職員が間に入って話を聞き、より良い関係が築けるよう対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去された後も必要な場合は、手紙や電話等で交流をもっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、会話や行動、表情などから本人の意向の把握に努めている。困難な場合は、家族などから情報を得たり、その方の立場に立って、どうして欲しいのか思いをくみ取り、対応に努めている。 (外部評価) 利用者担当を決め、一人ひとりと向き合いながら、気軽に話せるような関係作りに取り組んでいる。利用者の思いは可能な限り実現できるよう努めており、「喫茶店に行きたい」という希望を聞いて、職員が付き添って喫茶店に行き大変喜んでもらった。また、思いを言い表すことが困難な利用者に対しては、ふとした時に出た言葉やしぐさから利用者の思いを感じ取っている。把握した情報は申し送りノートに記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を一部取り入れ、本人家族などより様々な角度から把握に努めている。また、昔の生活を回想してもらえるよう、さりげなく会話に取り入れ、安心して生活してもらえるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) いつもと利用者さんの行動や顔色が違ってないか、気を付けて見守るようにしている。一日のリズムを把握し、言動や表情の変化を見逃さないよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者がより良く暮らすために、本人の希望やご家族の要望を来訪時や電話で聞き、またスタッフの要望も聞き毎月1回のカンファレンスを行い、きめ細かなケアプランを作成している。様々な方法を試してみて、本人が快適な生活が出来るよう、職員間で情報交換している。	
			(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を反映して、介護計画を作成している。作成した介護計画は本人や家族に説明して承諾を得ている。担当職員を中心に定期的なモニタリングを行い、職員全員の意見や気づきを大事にして介護計画がより良いものになるよう努めている。状態の変化等必要に応じて介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 健康チェック表に、バイタル、食事、水分、排泄等状況を記入把握したり、何をされたか行動、言動、表情等を記録している。また、病院に受診した場合は色分けして記録し、計画の見直しをしている。日々の様子や、心身の状態、ケアの実践、結果など個別に記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人のペース、家族の状況に合わせた対応をし、既存のサービスに捉われない柔軟な支援や、サービスに取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の公民館や、幼稚園の行事、同じ地域の施設の方との交流会に参加し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 医療連携加算を取っている為、緊急時などすぐに連絡 が取れるようにしている。週3回医師、看護師に来て頂 き、健康管理をしている。また、毎年の健康診断と毎 月定期の検査などを行っている。他科受診が必要な利 用者さんには職員が受診を支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を受診するこ とができる。受診には職員が同行して利用者の情報を 医師に伝え、かかりつけ医と連携が密に取れるよう支 援している。また、協力医が1週間に1回往診し、1年 に1回は健康診断を行っている。24時間対応で医療 連携が確実にできる体制が整っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気付 いたことを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や、看護を受け られるように支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院した際、安心して治療出来るように、ま た出来るだけ早期に退院出来るように、病院関係者との 情報交換や相談に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階 から本人やご家族との話し合いを行い、事業所で出来る ことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係 者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「看取り介護に関する指針」を作成し、入居時に利用 者や家族に説明している。今年に入り看取り支援を 行ったが、家族、医師、職員が話し合いを重ね、本人 と家族の思いを受け止めながら穏やかな最期を迎える ことができた。また、職員の不安解消に努めていくこ とも大切だと考え、外部研修に参加したり、内部でも 勉強会を行い安心して最期を迎えられるように前向き に考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えマニュアルを作成している。応急手当の研修会などに参加しミーティング内で応急手当での勉強会を行ったりしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を行い、消火、避難方法を身につけ、2ヶ月に1回の運営推進会議にて地域の方との交流を持ち、また県や市、地域の防災訓練に参加したりしている。 (外部評価) 年2回、消防署立会いのもと避難訓練を行っている。日中と夜間の火災想定で避難訓練を実施し、助言をもらっている。また、伊方原発災害時には、松山市内のグループホームと協力体制を整え、避難できるようになっている。備蓄品については現在検討中である。	避難訓練において以前は近隣住民の参加もあったが、現在は平日実施ということもあり近隣住民の参加がなくなっている。利用者の重度化に伴い職員でできることには限界があり、すぐに協力を求められるのは近隣住民である。避難訓練に継続して近隣住民へ参加の呼びかけを行い、休日に実施するなど地域との協力体制を築いていくことを期待する。また、備蓄品の整備にも努めてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に気を付け、利用者さんのプライドを損ねないようにしている。ご家族や職員に対してアンケートを実施し、気持ちの良い言葉使いを心がけて対応している。利用者さん、職員共にさん付けで呼んでいる。 (外部評価) 一人ひとりの気持ちを大切に、利用者の状況に合わせた声かけのタイミングや声の大きさに配慮した対応を心がけている。家族アンケートを実施し、アンケート結果を参考に職員で意見交換を行い、出された意見を共有しながら利用者の気持ちを大切にケアが実践できるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者さんが、日常生活の中で本人が希望したり、自己決定が出来るように声かけ、対応に気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせてドライブ、買物など希望に沿って支援している。利用者さんの体力低下もあり、散歩などはあまり行けていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 以前されていた事が継続出来るよう、マニキュアやお化粧品などをしたり、その日着る服を選んだりして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 前年度に比べキザミ食、とろみ食が増え普通食もやわらかくした物でないと食べられない人が増えている。調理時間も増えている為、利用者さんと一緒に作業しながら食事を作るのは、時間的に余裕がなく食事時間に間に合わない為、あまり出来ていないのが現状である。	
			(外部評価) 献立は調理担当職員2名が作成し、2日交代で調理している。4月から管理栄養士が入職し、より一層栄養バランスを考えた食事が提供できる予定である。利用者と職員が同じテーブルを囲み、和やかな雰囲気できている。介助が必要な利用者には、職員が横に座り利用者のペースに合わせて支援している。また、隣の畑の方から野菜の差し入れがあり、旬の食材を食することも多い。正月のおせち料理や節分、クリスマス等行事食を用意し、季節を感じながら食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量が少ない方には、食べそうな物を時間をずらして食べて頂いたり、水分量が少ない方には、お茶ゼリーを勧めたりしている。また、一人ひとりの食事量、水分量を健康チェック表に記入し、一日を通じて確保出来るようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの口腔状態に応じて、口腔ケアを行っているが、感染予防の為に、自分で出来る方にも声かけと確認が必要。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) なるべく尿取りパットや紙パンツを使用しないように、声かけをしてトイレで排泄出来るように心がけている。夜間、自分で排泄は出来るが、間に合わない方には、ポータブルを設置したりしている。	
			(外部評価) トイレは各ユニットに2ヶ所あり、跳ね上げ式の手すりを設置している。日中はできる限りトイレで排泄できるよう努めている。リハビリパンツや尿パットを使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、利用者の状態に合わせて自立を促している。また、布パンツを使用する利用者もおり、状態に合わせた用品の工夫を行いながら、一人ひとりの思いをくみ取った支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を取ってもらうよう声かけや介助を行ったり、便のでにくい方には、牛乳やヨーグルトなどの乳製品や、食物繊維などを取ってもらうようにしている。朝の清掃時に出来る事を手伝ってもらったりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調や気分に合わせて、入浴を実施している。訴えなどに合わせて、楽しんで入浴できるよう工夫をしている。入浴を嫌がられる方には、毎日声かけを行い、気分良く、入浴してもらえよう心がけている。	
			(外部評価) 入浴は週2～3回を基本として支援している。利用者の希望に沿って、毎日いつでも入浴ができるように準備されている。リフト浴が完備されているが、現在は使っていない。利用者の身体状況に応じてシャワーチェアの使用や2人体制での支援が行なわれており、利用者が気持ちよく安全に入浴ができるよう配慮されている。また、皮膚の弱い利用者は皮膚科を受診し、シャンプーなど特別に購入している。入浴の苦手な利用者には、言葉かけやタイミング、入浴日の変更をするなどの工夫をしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり体調などを考慮し、無理のないようソファや自室で休んで頂くよう、声かけや目配りを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 頓服などのお薬は別に保管し、通常服用されているお薬も服薬ミスが無いよう保管している。また、処方箋が確認出来るよう日々の記録に綴じ、どのようなお薬を服用されているかなど理解し、病状の変化の確認に努めている。朝、昼、夕、眠前と薬袋を色分けし確認しやすいようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) いつでも、散歩や気晴らしが出来るように玄関を開放している。退屈しないよう、残された機能を少しでも伸ばせるよう支援を心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気が良く人数的に余裕があれば、気分転換に散歩など行くよう努めている。また、ご家族に協力して頂き、普段行けないような場所でも出掛けられるよう支援している。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺の散歩や玄関先で外気浴したりして、気分転換できるよう努めている。お花見や大洲城広場に弁当を持って行くなど、季節ごとに外出できるよう支援している。ミキサ一食の利用者は事業所で食事を済ませて合流し、楽しい時間を過ごしている。また、散歩中に近隣の方から気軽に声をかけてもらうようになり、利用者も喜んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持することは難しいが、買物に行った時には個別の預かり金の中から、買物を楽しんで頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や電話でのやりとりは難しくなっているが、面会に来られた時にゆっくりと話が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には畳の間、テレビなどを配置し、行事の写真、利用者の作品を飾り、心地よく過ごせる空間になっている。	
			(外部評価) 温かい光が差し込むリビングは、明るく落ち着いた雰囲気になっており、対面キッチンから全体を見渡すことができる。壁には行事の写真を展示したり、クラブトや習字など利用者作品や園児から届いたメダル、中学生からの手紙が飾られている。利用者は畳コーナーにあるコタツやソファでくつろいだり、テレビを見たり、おしゃべりやカルタ取りを楽しんだり、思い思いの場所で穏やかな時間を過ごしている。また、事業所前のプランターにはチューリップ、玄関には雛人形が飾られ、季節を感じられる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにソファ、テレビ、カセットを置き、好きな場所で仲良し同士が過ごしたり、1人になりたい時には、居室に戻ったりし過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 今まで使い慣れた家具、日用品、布団などを使って頂き、安心して過ごせる場所になっている。	
			(外部評価) 居室には、ベッドとエアコン、収納が備え付けとなっている。使い慣れたタンス、机、イス、テレビ、ラジオ、家族の写真や位牌等、馴染みの物が持ち込まれている。壁には利用者の手作り作品などが飾られており、落ち着いた雰囲気の中で居心地よく過ごせるような空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの分かることや、力を活かして見守り支援し、必要以上の援助はしないように心がけている。	